有森裕子さんと愛の駆け橋

世界文化遺産アンコールワット大寺院前をスタート。ランナーは多くの古代寺院を走りながら巡る

今も後遺症が…

東南アジアの仏教王国カンボジアの現代史は、血にまみれている。ベトナム戦争に巻き込まれ、内戦つづき。70年代の半ばにはポル・ポト共産政権が恐怖政治を行った。

鎖国をし、学校や企業をつぶし、首都プノンペンをはじめ都市を破壊した。また宗教を弾圧し、古都シェムリアップにある世界遺産アンコールワット大寺院の仏像の首まで切った。

さらに、虐殺や強制労働、病気で死亡した国民の数は、200万人と推定されている。

一応、92年に国連の力で平和を取り戻したものの、その後遺症は痛ましい。国土は荒廃し、96年度の統計によると、国民1人当たりの総生産は300ドル。世界最貧国の一つとなった。

また、ポル・ポト時代の恐怖が去らず、多くの人が困難な物事にぶつかると、逃げるか、諦めてしまうという。日本の医療NGOによると、「精神病に苦しむ人が多く、治療薬が追いつかない」と、もらしている。

とくに、後遺症となっている。

世界遺産バックに快走

まさに、「24時間眠らない監視兵」であり、「悪魔の兵器」だ。農民は、怖くて田畑に入れない。子供は間違ってオモチャにし、身障者となる。すでに犠牲者は少なく見ても4万人以上という。

人道援助レース

日本の民間援助団体が、どこの国よりもカンボジアの救済に力を注いできたのは、こうしたカンボジアの国民の大きな不幸のためだ。そうした救済活動の中で、全く異色な援助を96年末から続けてきたグループがいる。日本のチャリティーランの運営団体やランニング愛好者である。

カンボジアのオリンピック委員会と陸上競技連盟が、地雷の除去された首都プノンペンか、アンコールワット大寺院のあるシェムリアップで、マラソン大会を企画したのだ。ランニングイベントは、世界的なブームだし、同国の観光事業になる。また、平和と安全のシンボルとともなる

—と考えたのである。

しかし、この希望をNGOを通じて要請された関係者は、はじめ当惑した。国内でも、ランニング大会の開発途上国となると、人・モノ・金のすべてが必要となる。それは、地道な努力の積み上げで実現した。80年末から各

新設は困難。まして、

昨年の大会で、現地の子供たちとともに疾走する有森裕子さん。彼らとの笑顔の出会いが彼女の力となる

21世紀に希望を

人一倍ハートのあったかい有森選手の活動は、個人のボランティアから発展、昨秋にはカンボジア支援を願い、スポーツNGO第1号、ハート・オブ・ゴールドを結成した。これを機に、マスコミや協賛企業の輪は一段と大きくなった。

いま世界は、20世紀の負の遺産をいっぱいに抱えて、21世紀を迎えようとしている。その典型がカンボジアの悲劇だ。が、日本の人道援助は、新しい世紀に希望の灯をともすことができる。12月5日、第4回アンコールワット国際ハーフマラソンに参加する人は、ランナーもスタッフも、心の金メダリスト。アジアの隣人の心のキズをいやす愛のランナーだ。

対人地雷被害者救済の願いをこめて…

カンボジアには今なお、1100万個の対人地雷が埋設されている。この「悪魔の兵器」を廃絶せねばならない

いるのは、1100万個と推定されている対人地雷だ。兵士も市民も無差別に襲い、手足を吹き飛ばす。殺さないだけに、治療費の負担がかかる。

アンコールワット国際ハーフマラソンの資金集めや運営に、日本のさまざまな団体が協力している。その中心になっているのが、有森裕子選手が代表をしているスポーツのNGO（非政府組織）、「ハート・オブ・ゴールド」だ。98年10月10日の体育の日に創設され、同日大阪で開催された千里シティマラソンで支援活動のスタートを切った。

自分たちが走ることで、少しでも社会貢献や国際貢献ができれば…というのが結成の理由で、元五輪ランナーの君原健二氏や増田明美さん、フォークシンガー

ハート・オブ・ゴールド

民マラソンで募金やキャンペーン協力がされている。

ことに見のがせないのは、レース運営面で、日本陸連や日本赤十字社、国際人権ネットワーク、AMDAアジア医師連絡協議会、日本医師ジョガーズ連盟など、社会的に大きな責任をもっている団体がつぎつぎと

の高石ともやさんらも仲間に加わっている。

また、ハート・オブ・ゴールドという名前は、副代表のローレン・モラーさん（ニュージーランド、バルセロナ五輪銅メダル）が名付け親。「カンボジアの対人地雷被害者の救済をめざす有森さんは心の金メダリスト」と感激し、このNGOの名を選んだ。まだ誕生して1年しかならないが、新聞、テレビ、ラジオ

全国に広がるスポーツNGO

等を通じて活動は大きく報じられ、カンボジアの悲惨な対人地雷禍を世界に訴える大きな力となっている。

また、有森選手とハート・オブ・ゴールドの趣旨や活動に感動して、各地の市

連動、愛の輪をひろげていることだろう。資金や資材の面でも、医薬品、食品、飲料のメーカーの協賛、協力が増え、ことし12月5日の第4回大会は運営資金の他に、約200万円の義肢プレゼントが可能という。

古西宏治・事務局次長（東京事務所代表）は当面はカンボジアの国際ハーフマラソンの運営と対人地雷被害者救済に全力をつくすが、将来は多方面の人を会に迎え、難民の救済など、人道援助の対象をひろげたい」と話している。

創設されて日は浅いが、ハート・オブ・ゴールドはいま一番注目されているNGOであり、世界に誇れる民間援助団体の一つだ。

〈ハート・オブ・ゴールド　東京事務局〉電話03（3357 5）5196

スが増え、ランナーの募金活動が進み、最大の資金源となったおかげだ。また、スポンサーも国際貢献を考え、手を差し伸べてくれた。

ことに、大きな力となったのは五輪マラソンのメダリストで日本女子スポーツ界の星、有森裕子選手が先頭に立ったことである。

地でチャリティーレー

子供たちと走ることが今から楽しみ

アンコールワット国際ハーフマラソン99実行委員会日本代表　有森裕子

「足の大切さを最も理解しているのは、走ることで充実感を得ているランナーだと思います。対人地雷犠牲者に義足を贈るためのこの大会、ひとりでも多くのランナーが参加し、現地の犠牲者の方々や子供達と感動を分けあっていただきたい。これまで3回の大会では、私自身も大きな勇気と力をいただきました。今年も現地の子供たちと走ることを、今からとても楽しみにしています」

◆愛のツアーに参加しませんか◆

◇…Aコース…◇
（東京出発のみ）
12月2日（木）出発→7日（火）帰国（4泊6日）
175,000円

◇…Bコース…◇
（東京・大阪出発）
12月3日（金）出発→7日（火）帰国（3泊5日）
168,000円（東京）
166,000円（大阪）

※別途、カンボジア入国査証料6,000円及びレース参加料5,000円が必要

ツアー申し込み問い合わせ

「アンコールワット国際ハーフマラソン事務局」〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18の11 セカンドビル3F 電話03（3661）2107、FAX03（3661）2104

▲大会への熱い想いを笑顔で語る有森裕子さん。「ひとりでも多くのランナーの参加」を呼びかけている